

## 2日 木曜

### 箴言



10:17 訓戒を大事にする者はいのちへの道にあり、叱責を捨てる者は人を迷わせる。  
10:18 憎しみを隠す者は偽りの唇を持ち、そしりを口に出す者は愚かな者である。  
10:19 ことば数が多いところには、背きがつきもの。自分の唇を制する者は賢い人。  
10:20 正しい人の舌は選り抜き銀の銀。悪しき者の心は無価値に等しい。  
10:21 正しい人の唇は多くの人を養い、愚か者は良識がないために死ぬ。  
10:22 人を富ませるのは【主】の祝福。人の苦労は何も増し加えない。  
10:23 愚かな者には悪事が楽しみ。英知のある者には知恵が楽しみ。  
10:24 悪しき者の恐れることはその身に降りかかり、正しい人の望むことはかなえられる。  
10:25 つむじ風が過ぎ去ると、悪しき者はいなくなる。正しい人は永遠の礎である。  
10:26 怠け者は、これを遣わす者にとって、齒に酢、目に煙のようなもの。  
10:27 【主】への恐れは日数を増やす。悪しき者の年は短くなる。  
10:28 正しい人の望みは喜び。悪しき者の期待は消え失せる。  
10:29 【主】の道は、誠実な人には砦、不法を行う者には滅びである。  
10:30 正しい人は永遠に揺るがされることがない。しかし、悪しき者は地に住むことができない。  
10:31 正しい人の口は知恵を突らせる。しかし、ねじれた舌は抜かれる。  
10:32 正しい人の唇は好意を知っており、悪しき者の口はねじれごとを知っている。

訓戒を大切にするか、そうでないか…、ことばにおいて思慮があって自制がきくか、そうでないか…がその人の人生を大きく左右することが分ります。箴言は、人生の訓戒であって、信仰とは関係ないかのように思えますが、「主の祝福そのものが…」とあるように、これは明かに信仰の視点に立ったものです。

箴言の格言は、主の祝福をいただくためであり、またその原動力は、主からの聖霊によるものです。主からの祝福はもう備えられています。それは十分であり、最高のものです。それに何も加える必要はないほどなのです。神なしで手に入れるような、自分の頑張りによるのではなく、神様からの祝福をもらいましょう。

23節からは正しい者と悪者の対比が述べられています。正しい者の系列の中に、「主を恐れること」があることに注目しましょう。主を恐れるならば主に聞き従いますから、当然正しい生き方になってゆくのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

